

目次

1. EIMS の起動	1
2. EIMS の主な機能	1
3. データ収集（棚卸）	2
3.1 データ収集の手順	2
3.2 ファイルへの取り込み	5
3.3 データ削除（個別バーコード削除）	9
3.4 データ削除（保存したファイル内の全バーコード削除）	11
3.5 データ削除（保存したファイル自体の削除）	11
3.6 保存済みの既存ファイルに、再度バーコードデータを入力	12
3.7 データ入力におけるその他の設定	12
3.8 エクスポート（データ取り込み）する際のデータ編集	14
4. 照合：バーコードデータの照合	16
4.1 照合設定	17
4.2 照合データをファイルへ取り込み	18
5. バーコードチェッカー	19
6. その他	20
7. 最後に	21

1. EIMS の起動

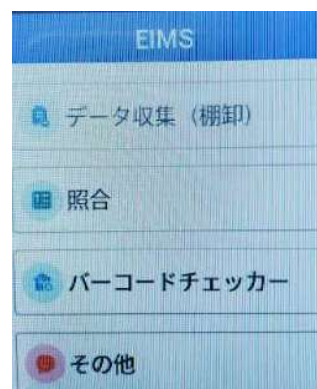
下記のアイコンをクリックすると、EIMS が起動します



2. EIMS の主な機能

- ① データ収集（棚卸）：バーコードデータ収集
- ② 照合：バーコードデータの照合
- ③ バーコードチェッカー：バーコードチェック
- ④ その他（EIMS ヴァージョン情報確認）

以下が EIMS 起動時の最初の画面となります。



3. データ収集（棚卸）

この機能では、読み込んだバーコード情報を以下のような形式で PC 側に表示・保存することができます。

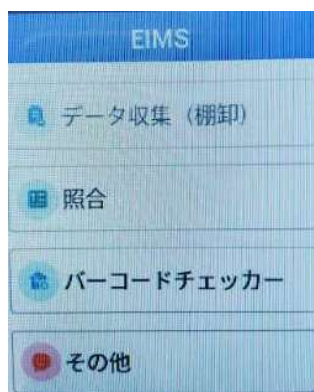
参考（エクセル形式のアウトプット）：

	A	B	C	D	E	F
1	データ名	バーコード①	バーコード②	バーコード③	数量	日付
2	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111111	1	2022-09-15 10:29:02
3	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111112	1	2022-09-15 10:29:14
4	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111113	1	2022-09-15 10:29:32
5	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111114	1	2022-09-15 10:29:07
6	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111115	1	2022-09-15 10:29:16
7	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111116	1	2022-09-15 10:30:26
8	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111117	1	2022-09-15 10:29:19
9	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111118	1	2022-09-15 10:29:10
10	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111119	1	2022-09-15 10:28:59

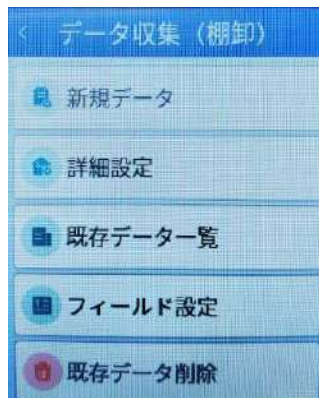
1つのデータ（エクセルの各列）に最大で3つのバーコード情報を紐づけできます。
（この例では、バーコード①②③が一つのデータとして紐づけされております）
デフォルトでは3つのバーコードデータを1つのデータとして紐づけされております

3.1 データ収集の手順

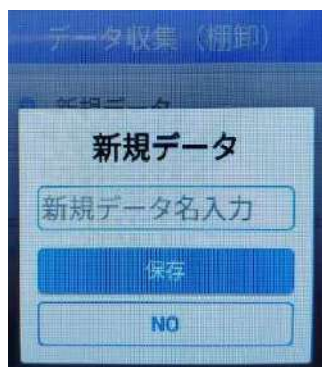
データ収集（棚卸）を選択します。



新規でデータを取得する際は、“新規データ”を選択します。



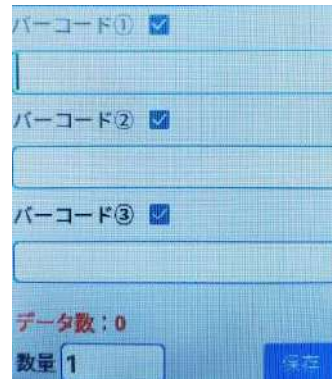
“新規データ名入力”に、データ名（任意）を入力します。



入力が完了したら、“データ収集開始”を選択します。



バーコードデータ入力画面が表示されます



バーコード①、②、③のフィールドにバーコードを入力します。
バーコードを入力後、“数量”も手入力に変更できます（デフォルトは1）。
同じバーコード（バーコードの組み合わせ）が複数ある場合は、
数量を変更してください。右下の保存ボタンを押すことで、データが保存されます。

データ入力はこの繰り返しとなります。


NOTE:

- バーコード①、②、③全てに入力する必要はありません。
- 1つだけ入力し、保存も可能です。
- また、バーコード①のみ連続で入力したい場合は、バーコード②、③の右横のチェックマークを外すことでバーコード②、③のフィールドがグレイアウトし入力できないようになります（チェックを入れると入力可能）

これで MT37 内にデータが保存されました。
基本操作は以上です。

3.2 ファイルへの取り込み

読み込んだデータをエクセル、CSV、TXT フォーマットに変換し、PC 側でファイルを開くことができます（PC 側で保存も可能）。

データの入力&保存が完了したら（=棚卸作業完了）、本体右上の“戻る”ボタン（ハードキー黄色ボタンの右側ボタン）を押して、前の画面に戻り“ファイルへの取り込み”を選択してください。このボタンを選択することで、入力したデータがエクセルフォームで保存されます（デフォルトはエクセルですが、他のフォーマット、CSV, TXT、に変更可能です）。



“ファイルへの取り込み” が完了したら、データを PC 側で開きます（保存も可能）。

取り込み手順:

付属の USB ケーブルで MT37 と PC を接続します。



MT37 の画面上部を指で下方方向にスワイプします(黄色矢印)



以下のように、オプション画面が表示されます。

“Android シ… この端末を USB で…” の右にあるドロップダウンをタップしてください。



更にオプションが表示されます。

“タップしてその他のオプション…” の部分をタップします。



以下の画面が表示されます。“ファイルを転送する” をチェックします。



PC 側の C 直下に NLS-MT37 アイコンが表示されます。

同アイコンをクリックすると内部ストレージ（以下）が表示されます。

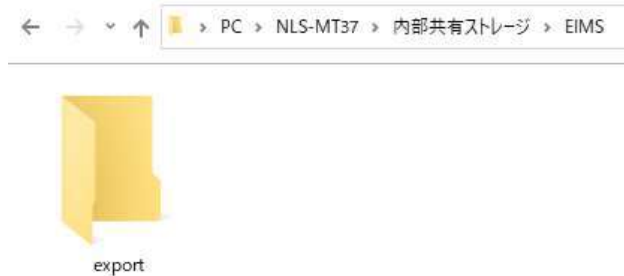
（これで、PC から MT37 へ、リモートアクセスした状態となります）



“内部共有ストレージ” アイコンをクリックすると直下のフォルダが表示されます。



“EIMS” という名前のフォルダを開くと “export” フォルダが表示されます。



“export” フォルダを開くと、保存したデータ(例：Warehouse A)が表示されます。



該当エクセルを開くと、入力したデータ情報が確認できます。

	A	B	C	D	E	F
1	データ名	バーコード①	バーコード②	バーコード③	数量	日付
2	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111111	1	2022-09-15 10:29:02
3	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111112	1	2022-09-15 10:29:14
4	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111113	1	2022-09-15 10:29:32
5	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111114	1	2022-09-15 10:29:07
6	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111115	1	2022-09-15 10:29:16
7	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111116	1	2022-09-15 10:30:26
8	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111117	1	2022-09-15 10:29:19
9	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111118	1	2022-09-15 10:29:10
10	Warehouse A	Rack 1	NLT-MT37	1111111119	1	2022-09-15 10:28:59

*必要において、同データを PC 側に保存してください。

また、不要なデータは MT37 上の Export フォルダから削除してください。

データ収集（棚卸）の一連操作は以上となります。

3.3 データ削除(個別バーコード削除)

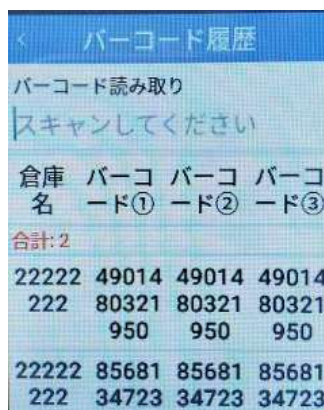
データ収集中に、間違ったデータを読み込み保存した場合は、該当データを削除することができます（手順は2つ）。

① バーコード履歴から直接削除する方法：

“戻る” ボタンで、前の画面（以下）に戻り、“バーコード履歴” を選択します。



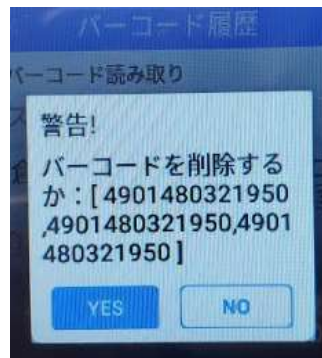
“バーコード履歴” を選択すると、以下の画面が表示されます。



The screenshot shows the 'バーコード履歴' screen with a table of scanned data. The table has columns for '倉庫名', 'バーコード①', 'バーコード②', and 'バーコード③'. There are two rows of data, each with a red '合計: 2' label to its left.

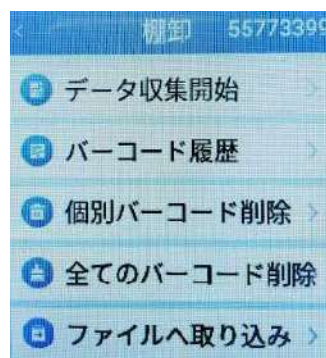
倉庫名	バーコード①	バーコード②	バーコード③
22222	49014	49014	49014
222	80321	80321	80321
	950	950	950
22222	85681	85681	85681
222	34723	34723	34723

削除したいデータを長押しすると、削除メッセージが表示されます。

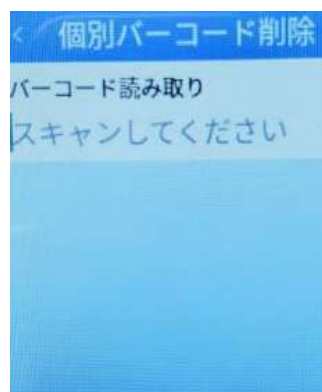


“YES” を選択することで該当バーコードデータが削除されます。

② もう一つは、“個別バーコード削除”を選択し削除する方法：



“個別バーコード削除”を選択すると、以下の画面が表示されます。削除したい実際のバーコードを読ませる（スキャンする）ことで、保存したデータが表示され、削除することができます。以下が“個別バーコード削除”をクリックした際の画面です。

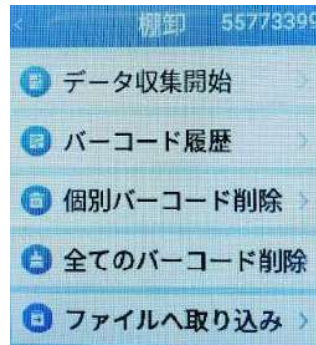


バーコードデータ削除に於ける注意事項：

同じバーコード情報が 20 個あった場合（例：20 個すべてが NLD-MT37 というデータの場合、NLD-MT37 で削除すると、20 個全てが削除されます。

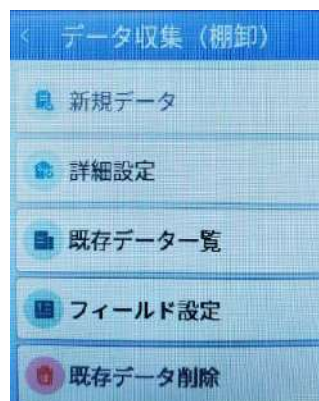
3.4 データ削除(保存したファイル内の全バーコード削除)

任意の名前（例えば、Warehouse A という名前）で保存したバーコードデータ全てを削除したい場合は、“全てのバーコード削除”を選択することで、任意名で保存したファイル内の全てのバーコードデータが削除されます。



3.5 データ削除(保存したファイル自体の削除)

一方、ファイルそのものを削除したい場合は、更に“戻る”ボタンで前の画面に戻り、“既存データ削除”を選択することでファイル自体を削除することができます（例：Warehouse A という名前のファイル自体が削除されます）。



3.6 保存済みの既存ファイルに、再度バーコードデータを入力

“既存データ一覧”を開くと今まで保存した既存データのフォルダ名が表示されます。“データ名”配下の保存ファイル名を直接クリックすることで、同フォルダ内に再度バーコードデータ入力が可能です（入力手順は新規入力と同じです）。

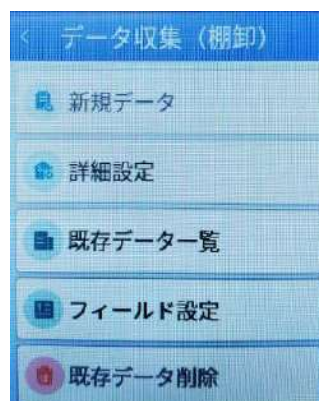
既存データ一覧例



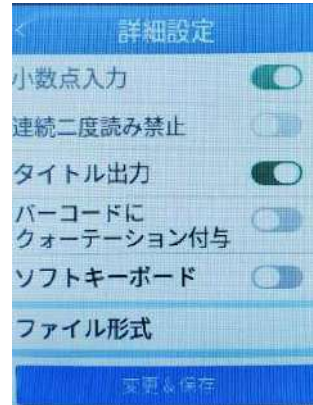
データ名	数量
Warehouse 1	64
Warehouse A	57
room 1	28

3.7 データ入力におけるその他の設定

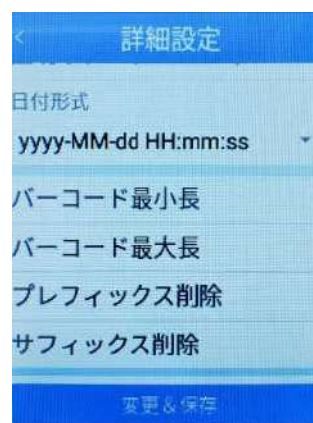
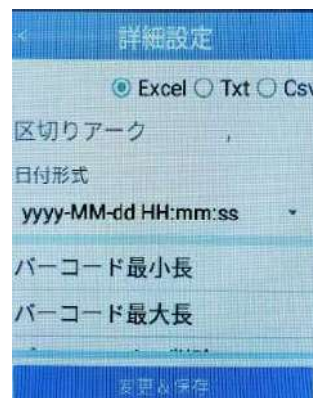
“詳細設定”を選択してください。



“詳細設定” 配下のメニューです。



スクロールダウンすると更に項目が表示されます。

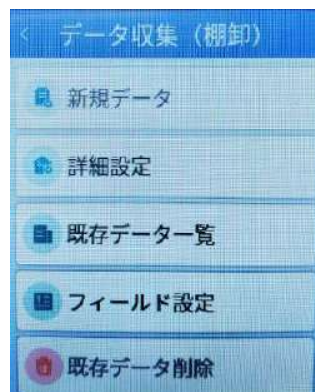


説明：

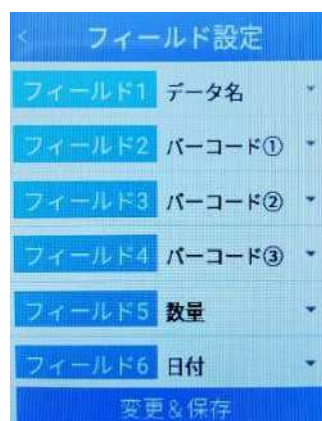
1. 小数点入力：「棚卸スキャン」画面の「数量」に小数点入力を可能にする機能です。
2. 連続二度読み禁止：同じバーコードの読取を禁止する機能です。
3. タイトル出力：エクスポートファイル（取り込みファイル）にタイトルを付与する機能です。
4. バーコードにクォーテーション付与：エクスポートファイルのバーコードデータにダブルクォーテーションをつける機能です。
5. ファイル形式：エクスポートする際のファイル形式を選択できます（Excel/TXT/CSVのいずれかを可能です。デフォルトはExcelです）
6. 区切りアーク：データエクスポート時に区切りマークを付与する機能です。
7. 日付形式：データに紐づく日付のフォーマットが選択できます。
8. バーコード最小長：スキャンできるバーコードの最小桁数の指定です。
9. バーコード最大長：スキャンできるバーコードの最大桁数の指定です。
10. プレフィックス削除：削除したいプレフィックスの指定です。
11. サフィックス削除：削除したいサフィックスの指定です。

3.8 エクスポート（データ取り込み）する際のデータ編集

“フィールド設定”を選択します。



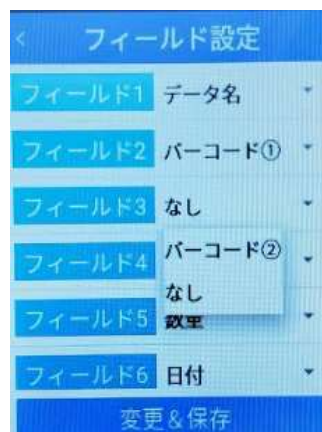
例：ファイルで取り込む際のエクセルの特定の Column（縦の項目）を削除して、エクセルに取り込むことができます。



エクセルに取り込んだ際、バーコード②の Column を意図的に削除する場合はフィールド3（=バーコード②）のドロップダウンメニューより、“なし”を選択すると、バーコード②が表示されずエクセルにデータが取り込まれます。

ドロップダウンメニュー：

- バーコード②
- なし



結果(アウトプット)：

	A	B	C	D	E
1	データ名	バーコード①	バーコード③	数量	日付
2	Warehouse A	Rack 1	1111111111	1	2022-09-15 10:29:02
3	Warehouse A	Rack 1	1111111112	1	2022-09-15 10:29:14
4	Warehouse A	Rack 1	1111111113	1	2022-09-15 10:29:32

バーコード②が削除された形でエクスポートされます。

4. 照合：バーコードデータの照合

始めに読んだバーコード情報（基準バーコード）とそれ以降読み込んだバーコード（比較バーコード）の比較が可能です。

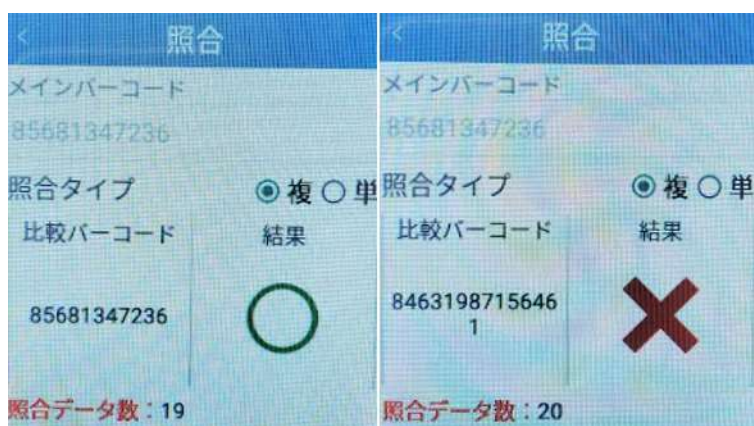
1:1 と 1:N の比較に対応しております。

- 1:1 = 単を選択
- 1:N = 複を選択

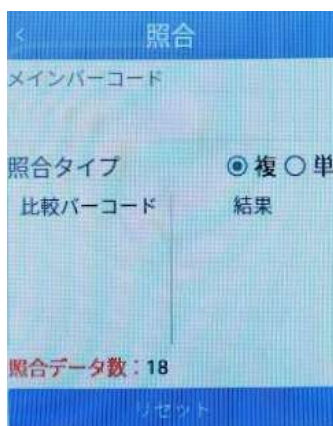
以下の画面は 1:N（複）を選択した際の比較結果です。

一致すれば○、差異があれば×を表示します。

（読みこんだ際の音でも一致、不一致が判断できます）

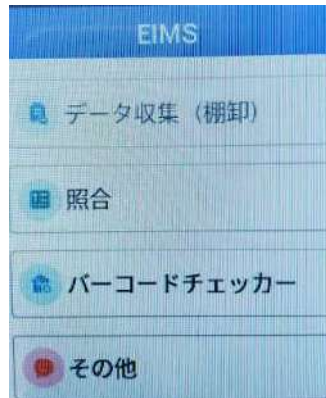


1:N（複）選択時、新しい比較を開始する際は、画面下のリセット“リセット”をクリックしてください。次に読み込んだバーコードが新しい基準バーコードとなります。

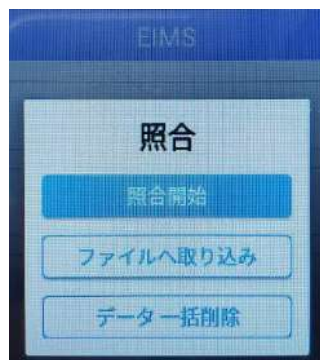


4.1 照合設定

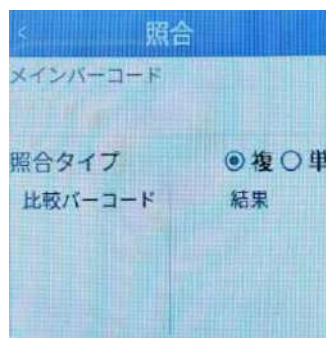
“照合”を選択してください。



ポップアップが表示されますので、“照合開始”を選択してください。



以下の画面が表示されますので、あとは、バーコードを読み込むことで照合が開始されます。

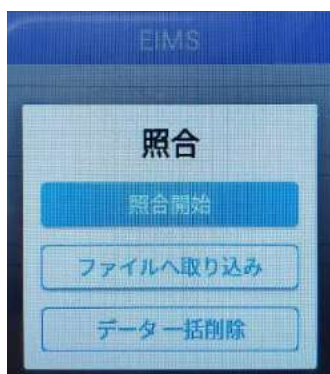


照合作業は以上です。

4.2 照合データをファイルへ取り込み

データ収集同様、照合も“ファイルへの取り込み”が可能です。

照合が終了したら、戻るボタンで以下の画面に戻り、“ファイルへの取り込み”を選択してください。取り込み方法はデータ収集の“ファイルへの取り込み”と同じです。そちらをご参照ください。



以下がファイルへ取り込んだ際のデータになります。

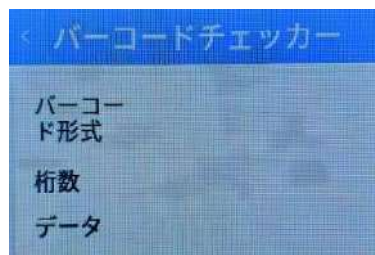
	A	B	C	D	E
1	マスターコード	比較コード	比較結果	比較時間	倉庫名
2	MT377KBE00020	MT377KBE00020	OK	2022-05-31 16:27:53	Warehouse 1
3	MT377KBE00020	MT377KBE00020	OK	2022-05-31 16:27:55	Warehouse 1
4	MT377KBE00020	MT377KBE00020	OK	2022-05-31 16:28:12	Warehouse 1
5	MT377KBE00020	MT377KBE00020	OK	2022-05-31 16:28:19	Warehouse 1
6	MT377KBE00020	NLS-HR+	NG	2022-05-31 16:28:23	Warehouse 1
7	MT377KBE00020	MT377KBE00020	OK	2022-05-31 16:28:34	Warehouse 1

5. バーコードチェッカー

バーコードの形式、バーコードのデータ内容、桁数が確認できます。
“バーコードチェッカー”を選択してください。

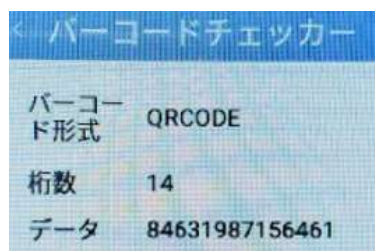


バーコードを読み込むことで、以下の画面が表示されます。



バーコードを読み込むと以下の内容を表示します。

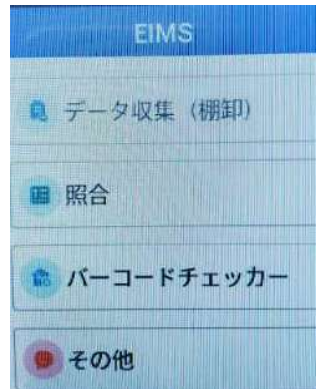
- バーコード形式
- 桁数
- バーコード情報



バーコードチェックは以上です。

6. その他

EIMS ヴァージョン情報確認が確認できます。
その他を選択します。



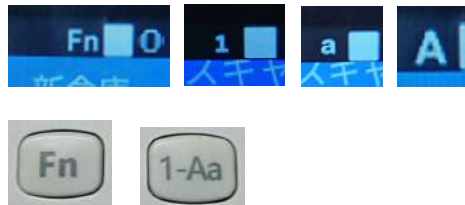
EIMS のヴァージョン情報が表示されます。
NRE_V2.0.0



ヴァージョン情報確認は以上です。

7. 最後に

EIMS を操作する上で、文字入力はソフトキー、ハードキー両方で入力が可能です。画面上部に Fn と表示されている場合は、ソフトキー入力は可能ですが、ハードキー入力できません。その際は、Fn のハードキーをクリックすることで Fn というステータスから 1, a, A (数字、小文字、大文字) のステータスに変更され、ハードキー入力も可能になります。1, a, A の切り替えは 1-Aa のハードキーをクリックすることで変換できます。



以上